

なぜなケアプランセンター



エアコンの風を嫌い、代わりに扇風機を使用している利用者がいる。「窓を開けたら風が通るから大丈夫」と話すが、昔と違い気温は非常に高くなっている。熱中症になっていないか、倒れていないかと心配になる。このまま一人暮らしができるのかと思うが、自宅で暮らしたい本人の希望もかなえたい。担当した頃は、何度も足を運んで信頼関係の構築に努めた。頑固な性格であり、まともに話も聞いてくれなかったが、今は「いろいろ世話してくれてありがとう」と笑顔で話してくれる。ケアマネジャーとしてうれしい言葉だ。

共生の里ヘルパーステーション



家の中を片付けられず、転倒リスクのある利用者宅を訪問した。部屋には入れてもらえるが「掃除しますね」と伝えたと「自分で出来るから大丈夫」と拒否する。伝え方を変え「転ばない様に布団周りだけ片付けていいですか」とお願いした。「転ぶのは嫌やから仕方ないな、絶対そこだけやで!」と、固かった表情が少し和らいだ。全部を強引に片付けようとせず、一部分から利用者さんの許可を得ながら進めたことで、少しずつ心を開いてくれたようだ。声掛けを工夫し丁寧に関われば、利用者の気持ちが動く実感した。

誕生日に寄せて

男性が化粧品会社に勤めるのが珍しかった時代、卒業後まだ社員も少なく立ち上げたばかりの資生堂の会社に入社した。男性用化粧品に目を付け研究を重ねそれが爆発的に売れた。車内に卓球クラブがあり個人で入賞するまで昇りつめ、卓球の出来るデイなら行くと言われ成合に来られ、久しぶりの卓球が出来てとっても嬉しそうでした。10代から収集し続けた切手も素晴らしものでした。

